



国登録文化財

とみた けじゅうたく 富田家住宅

一棟

平成十六年八月十七日登録

この住宅は、入母屋造、平入、木造二階建の大型の住宅で、屋根は総檜瓦葺きである。

建物の正面は南東とし、桁行は十一間半（二十一メートル）、梁間は九間（十六メートル）をわ

かる。
内部の木部化粧には透き漆塗りが施され、ガラスを多用した建具を含め、近代の和風意匠が随所にあらわれている。全体に良質の材を用いて、質の高い大工技術が隅々まで発揮されており、現在でも木組や建具には寸分の狂いも無い。また、座敷の欄間は民間住宅に井波彫刻が取り入れられる初期の作品としても貴重である。

富田家住宅は、近代の高い施工技術や意匠力を現代に伝える貴重な建物である。

平成十七年三月二十二日

文化庁
南砺市教育委員会

富田家は戦国時代までさかのぼる家系で、藩政期には肝煎を務め、明治以後には県議会議員、西野尻村材長などを務めた家柄であった。現在の主屋は、大正十三年に着工し、昭和初期まで工事は続いたが、当主が施工途中で亡くなったこともあり、二階は未完成のまま、施工途中の様子が残る。正面は、正面側の接客空間、背面側の住居空間に区分される。正面側は中央に敷台玄関を構え、その奥を二十四畳敷の広間とし、南西側の手を座敷部、北東側の下手を土間部とする。土間と正面側には内向きの玄関を設ける。主屋部分の広間や座敷部は同じ大きさで、半間から三間までの柱間隔で配置している。これらの部屋の内側には、柱の横材として、建物ではなく長押と呼ばれる装飾材が使われる。
建物の正面は、木組みの構造材を化粧とし、壁は白漆塗。一期の意は格子戸、二期は両端の壁以外は引き違いガラス戸とする。これらの建築技術全てが近代の和風建築の息吹を感じさせる。









福野町安居寺公園案内図



文化財を大切に































安居寺の南砺市指定文化財

安居寺仁王門 (建造物)

昭和四十六年七月二十日
入母屋造檼瓦葺、二間一戸の樓門で、明和九年(一七七二)に再建。

安居寺古仁王立像 (彫刻)

昭和四十六年七月二十日
本堂前の山門にあり、慶長二十年(一六一五)の作。總丈約三・三m。

安居寺鰐口 (工芸品)

平成六年四月二十二日
万治二年(一六五九)作。現存する在銘の高岡鑄物として最古の鉄製鑄造品。

慶長在銘彩色絵馬 (絵画)

昭和三十九年六月二十九日
県内最古の在銘絵馬。慶長十六年(一六一二)銘の騎馬武者絵と、同十七年銘の曳き絵馬の二枚がある。

安居寺古文書 (古文書)

昭和五十五年四月十七日
加賀藩祈願所として厚く信仰され、藩主や重臣の文書が多く残されている。

伝長慶天皇御陵 (史跡)

昭和三十三年七月二十四日
二m四方の中世方形墳墓。

地藏林 (史跡)

昭和三十三年七月二十四日
安居寺発祥の地と伝える。

大ケヤキ (天然記念物)

昭和三十七年七月二十四日
高さ三十六m、幹周り七・六m。樹齢約五百年。

アベマキ林 (天然記念物)

昭和三十七年七月二十四日
別名コルクガシ。北陵に自生するのは珍しい。



文化財を大切に

平成十六年十二月二十日
南砺市教育委員会

































































